

4. 学び続ける力を育てる

「主体的・対話的で深い学び」の視点は、「知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身につくことを目指す」ものです。そのためには、「主体的な学び」と「対話的な学び」の過程を実現し、「深い学び」につなげる学びの過程を充実させることが大切です。

「深い学び」の過程では、新たに獲得した知識が、既存の知識と関連付けられたり、組み合わせられたりしていくことで、様々な場面で活用できるものとして身につきます。

このような深い理解や資質・能力の獲得は、学ぶことの意義や社会との関係の実感につながり、学習に向かう動機を高めます。そして、こうした学習経験の積み重ねが、生涯学び続ける力となります。

POINTS

① 主体的な学び

児童・生徒が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身についた力を自覚したり、共有したりすることが重要です。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習習慣を振り返って次につなげる。(中央教育審議会答申)

【実践例】

- ・ 実社会や実生活に関わる主題に関する学習を積極的に取り入れる。
- ・ 実体験をとまなう学習活動の充実を図り、その成果を振り返って次ぎの学びにつなげる。



(例) 予想を揺り動かす事象の提示



(例) 学びの手ごたえを実感する言語活動



(例) 必要な材料を手にとれる学習環境
(図書室を使った授業)

②対話的な学び

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教師と児童・生徒や、児童・生徒同士が対話し、それによって思考を深めていくことが求められています。

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。（中央教育審議会答申）

【実践例】

- ・多様な表現活動を通じて、教師と児童・生徒、児童・生徒同士や児童・生徒と教材が対話し、それによって思考を広げ深める。



（例）相手を意識した表現活動



（例）課題に対する様々な意見をまとめながら解決する



（例）ペアやグループ活動等、目的にあわせた人数構成



（例）互いの考えを話し合う中で本質に迫る内容に高める

③ 深い学び

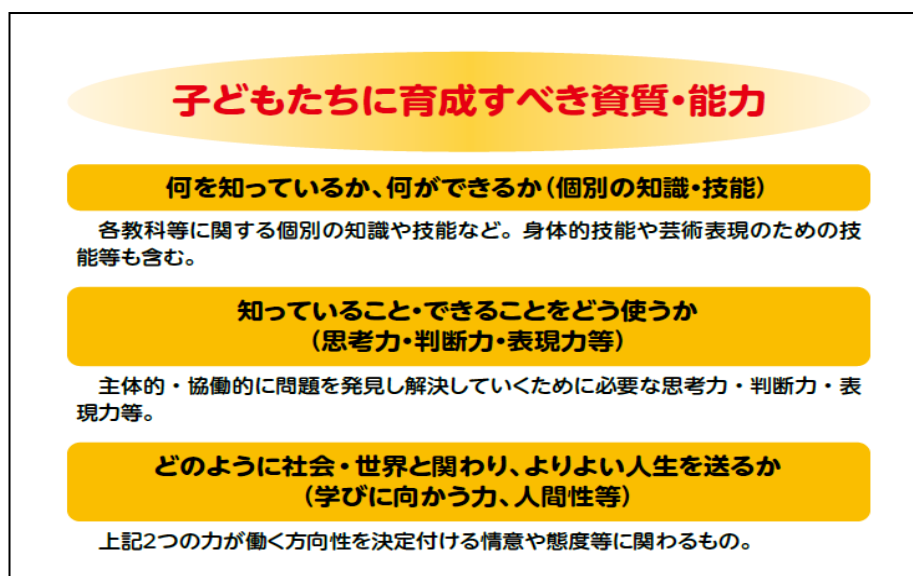
児童・生徒が各教科等の学びの過程で、身に付けた力を活用したり、探求しながら物事を捉え思考することを通じて、その力がさらに伸ばされたり、新たな力が育まれたりしていくことが重要です。教師は授業で、教える場面と、児童・生徒に主体的に思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し、関連させながら指導することが求められています。

習得・活用・探求という学びの課程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。（中央教育審議会答申）

【実践例】

（新しい知識や技能の）**習得**、（知識や技能を実際に）**活用**、（問題解決に向けた）**探求**という学習プロセスの中で

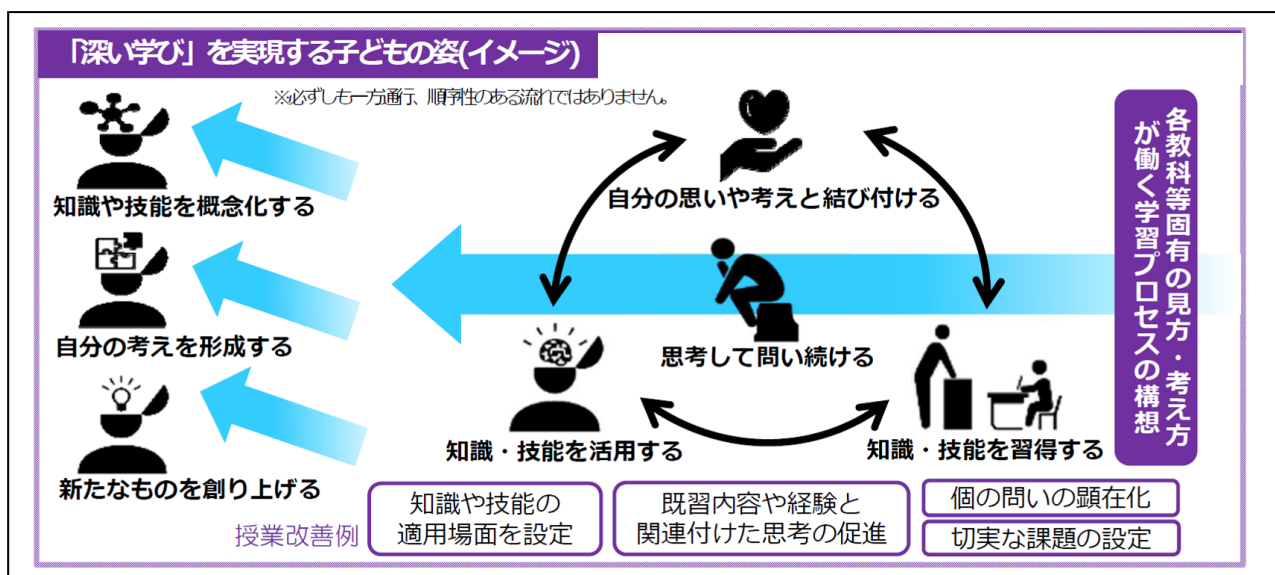
- ・ **資質・能力の3つの柱**（下図参照）に示す力が総合的に発揮される場面を設定する。
- ・ 教える場面と、児童・生徒に主体的に思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導する。



～深く学ぶ児童生徒のイメージ～



（例）学んだ知識を関連付けて思考し、
新たな課題を見つける



(例) 教材を工夫し主体的に知識・技能を修得



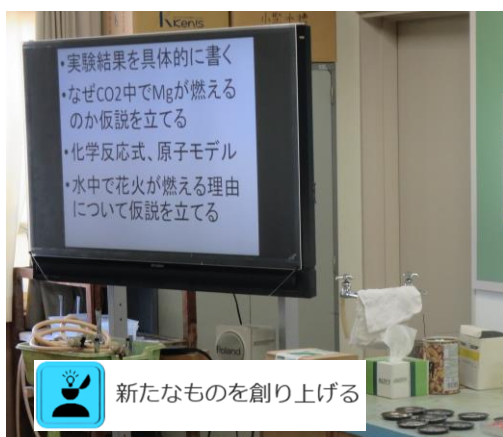
(例) 習得した知識を表現活動で活用



(例) ペア活動を通して全員が自分の意見を持つ



(例) 学んだ知識をもとに自らの言葉でまとめる



(例) 自分の考えをもとに、新たなものを創造する